

# 消化器内科医に聞く

富山ろうさい病院 消化器内科副部長

かね たつひこ  
金 辰彦



H28年 新病院完成予想図

## ピロリ菌の除菌について



ヘリコバクター・ピロリ菌（以下ピロリ菌）とは胃の中に生息している細菌です。ピロリ菌が胃の粘膜に感染すると、炎症細胞が誘導され、慢性活動性胃炎が生じます。胃潰瘍、十二指腸潰瘍、萎縮性胃炎等が生じることが知られています。最近では胃癌との関連も指摘されています。

以前は、胃潰瘍、十二指腸潰瘍などの病気がある方にピロリ菌の検査が保険適用されていましたが、最近慢性胃炎に除菌治療が適用されるようになりました。内視鏡検査で胃炎と診断された方でピロリ菌感染が疑われる場合は、ピロリ菌検査が保険適用されます。

ピロリ菌は、「呼気」・「血液」・「尿」・「便」・「内視鏡」のいずれかの検査で調べます。①迅速ウレアーゼ試験、②鏡検法、③培養法、④抗体測定（血中・尿中）、⑤尿素呼気試験、⑥糞便中抗原測定などがあり、陽性であればピロリ菌に感染しています。なお、プロトンポンプ阻害薬（胃潰瘍、逆流性食道炎の薬）を服用している場合は、ピロリ菌に対し静菌作用のあるため、偽陰性となる可能性があります。

除菌治療は、3種類の薬剤（2種類の抗生剤、1種類のプロトンポンプ阻害薬）を1週間内服します。一次除菌の成功率は80%といわれています。一次除菌が不成功となった場合、大きくは2つの要因が考えられます。1つは患者さんの服薬コンプライアンス（服用方法を守ること）が不良であった場合、もう1つは耐性ピロリ菌に感染していた場合です。服薬コンプライアンスの不良は、除菌率を低下させるだけでなく、耐性ピロリ菌の出現につながる可能性が指摘されています。耐性ピロリ菌感染例では、除菌率は著しく低下することが知られています。その場合の二次除菌では薬の内容を変更して行います。一次除菌、二次除菌をあわせた除菌の成功率は95%を超えると報告されています。

除菌療法の主な副作用症状として、軟便や下痢、味覚異常、発疹やかゆみなどがあります。また肝機能検査AST（GOT）・ALT（GPT）値の変動が報告されています。

### 【副作用が起こった場合の対処法】

○発熱、腹痛をともなう下痢、便に血が混ざっている場合：あるいは発疹やかゆみがあらわれた場合には直ちに薬を服用するのを中止して、医療機関に連絡してください。

○軟便、軽い下痢または味覚異常の場合：自分の判断で、服用する量や回数を減らしたりせずに、かかりつけ医に相談してください。できるだけ最後まで（7日間）薬の服用を続けていきましょう。

**ご質問や相談したいことがありましたら、医師や薬剤師にお尋ねください。**

<健康診断部の結果、「精密検査必要」と言われた方の受診予約（電話等）を受けています。>

待ち時間が少なく、スムーズに受診を受けられます。特にお仕事をされている方、多忙な方はどうぞ地域医療連携室（下記）にご連絡ください。

直通 0765・22-1354（平日9：00～16：00）

富山労災病院では、緊急に受診を希望される方の受付を行っています。

症状を自覚した時、夜間・休日の救急外来の時間まで待たずに来院してください。

事前に電話されるとスムーズに診療できます。

電話 0765-22-1280（病院代表）